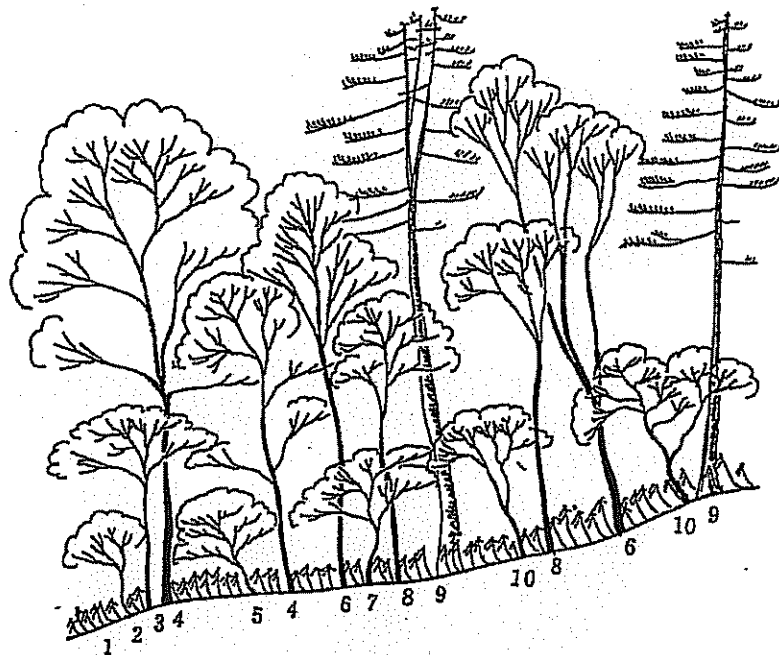


資料4-3 大台ヶ原のブナ林



群落断面模式。

Vegetation profile of a beech (*Fagus crenata*) forest.

1:ミヤコザサ *Sasa nipponica*, 2:タンナサワフタギ *Symplocos coreana*, 3:カインナサラサドウダン *Enkianthus campanulatus* var. *sikokianus*, 4:ブナ *Fagus crenata*, 5:シロドウダン *Enkianthus cernuus*, 6:ヒメシヤラ *Stewartia monadelphus*, 7:オオカメノキ *Viburnum furcatum*, 8:コハウチワカエデ *Acer sieboldianum*, 9:ウラジロモミ *Abies homolepis*, 10:シロヤシオ *Rhododendron quinquefolium*.

標徴種 カインナサラサドウダン。区分種 ウラジロモミ, オオイタヤメイゲツ, イトスゲ, シラネワラビ。相観 ブナの優占する夏緑広葉樹高木林, ウラジロモミの優占することもある。構造 高木層, 亜高木層, 低木層, 草本層の4層からなる。高木層は26mに達し, ウラジロモミがブナの樹冠を突出する。亜高木層は8~18m, 植被率は10~40%。低木層は2~6m, 植被率は10~60%。草本層は0.2~1.5m, 植被率は50~90%を占める。組成 高木層にウラジロモミのほか, オオイタヤメイゲツ, ミズナラを伴う。亜高木層にはヒメシヤラ, タンナサワフタギ, アオダモ, カインナサラサドウダン, シロヤシオ, コミネカエデなどが生育。低木層にはカマツカ, オオカメノキ, フリンウメモドキ, ヒロハツリバナ, ミヤマガマズミが常在的。草本層では1,500m以上にミヤコザサが, 以下にスズタケが優占しやすい。イトスゲ, ヒメミヤマスミレ, ホソバトウゲシバ, シラネワラビ, ユキザサ, ツタウルシ, ヘビノネゴザ, イワガラミが普通。立地 温量指数60~45の気候帯。山岳斜面の中庸な立地の気候的極相林。土壤は弱湿性から適潤性の褐色森林土壌。垂直的に海拔1,350~1,760mの雲霧の発生しやすい山岳上部に成立。動態 クロヅル, ノリウツギ, ヤマブドウなどのツル・低木林, 山頂現象を呈する立地ではカインナサラサドウダン, シロヤシオ, ベニドウダンからなるツツジ科低木林, オオイタヤメイゲツを伴うクリーミズナラ林が二次植生として発達。下位単位 コヨウラクツツジ亜群集(海拔1,570m以上の高海拔域), 典型亜群集(海拔1,690m以下の低海拔域)。上級単位 スズタケブナ群団, ササーブナオーダー, ブナクラス。配分 高海拔でイトスゲートウヒ群集, 低海拔でシラキブナ群集に接する。渓谷でイワボタンシオジ群集, 岩角地でツクシヤクナゲヒノキ群集に接する。分布 紀伊半島。原記載地 大台ヶ原(菅沼・光井 1975)。

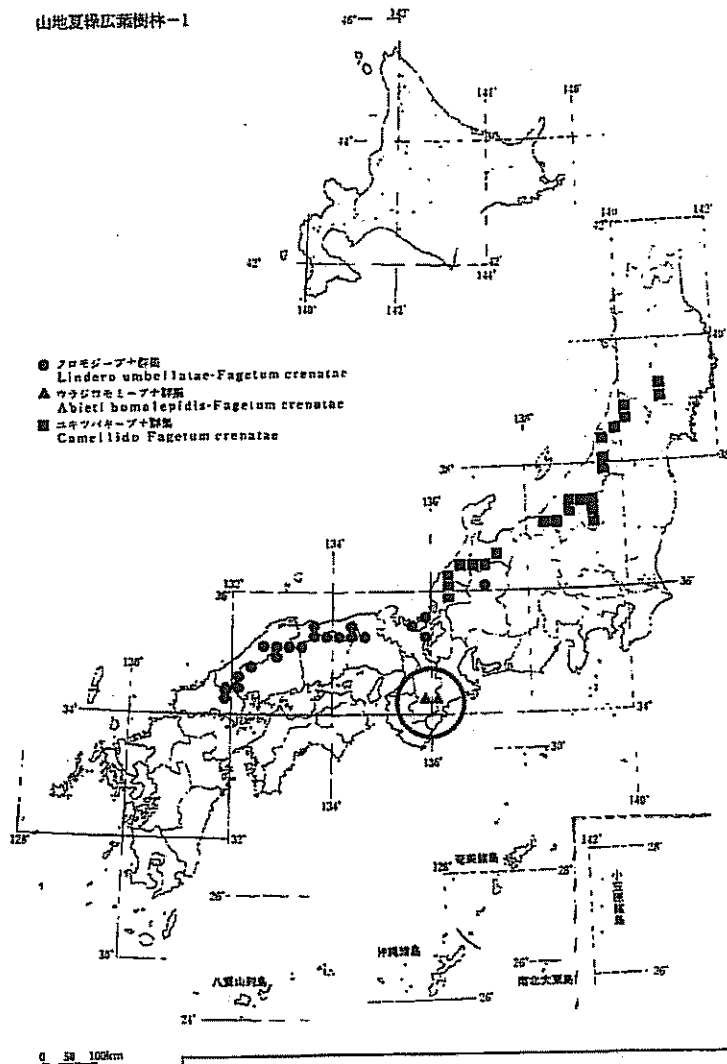
ウラジロモミブナ群集の概要

「日本植物群落図説」(宮脇・奥田 編, 1990)より抜粋

## ウラジロモミ-ブナ群集

ウラジロモミ-ブナ群集は大峰山系、大台ヶ原周辺の海拔 1,320~1,760m の間にみられ、中庸な立地に気候的極盛相として発達している。ウラジロモミ-ブナ群集は年間 4,500 mm 以上という、わが国有数の降雨地帯に発達しているために、一般に見られるブナ林の構成種にウラジロモミという高地性のモミとヒノキを加え、独特の相観を持った森林を形成している。ウラジロモミは太平洋側のブナ帯に見られるが、一般にはブナ林の上部にウラジロモミ林をつくっている。また、ヒノキは富士山などで溶岩地帯にヒノキ林をつくっていてブナと混生することは稀である。大台ヶ原で混生しているのは、多雨、豪雨でわずかずつではあるが、浸食により土壌が悪化したためである。大台ヶ原のブナ原始林はこのような環境条件とつり合って、学術的にも貴重な森林の構成を示しており、森林保護の面からも重要な存在である。(『大台ヶ原・大杉谷の自然』、昭和 54 年)より抜粋)

山地夏緑広葉樹林-1



ウラジロモミ-ブナ群集の分布

(『日本植物群落図説』、宮脇・奥田、1990 年)より抜粋